

長寿命化修繕計画

○経緯

平成24年12月に発生した笹子トンネル天井板崩落事故により、老朽化したインフラ施設の安全性が社会問題となった。この事故を背景に、平成26年度道路法施行規則が改正され、道路橋、横断歩道橋、大型カルバート等の法定点検が義務付けられた。

○法定点検概要

- ・点検頻度：5年に1回
- ・点検方法：近接目視（必要に応じて触診、打音等の非破壊検査を実施）
- ・診断：構造物単位で健全性の診断

○計画の新規策定または改定するもの：3計画

I 橋梁長寿命化修繕計画(改定)

1. 計画改定の目的

平成26年度に定期点検が義務化され橋梁の「定期点検要領」が定められたことで、補助対象が橋長2m以上となったことから、これまでの48橋から橋長2m以上の全管理橋梁172橋を対象とした計画に改定する。また、平成30年度に一巡目点検が終了したことで、その結果についても本計画に反映する。

2. 優先順位の設定

2.1 判定区分について

〔「道路橋定期点検要領」による判定区分〕

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

良
↑
↓
悪

2.2 重要度の設定

管理区分	分類指標	健全性の把握	対策方法	対象橋梁数	判定区分Ⅲ	判定区分Ⅳ
重要度1	跨線橋、緊急輸送路の道路橋及び跨道橋	定期点検	損傷が軽微な段階での予防保全的な補修等	11橋	7橋	0橋
	1級河川に架かる道路橋			3橋	0橋	0橋
	幹線市道Ⅰ号線の道路橋、及びその他跨道橋			8橋	1橋	0橋
重要度2	幹線市道Ⅱ号線に架かる橋長15m以上の桁構造	定期点検	損傷が顕在化した段階での補修等	3橋	0橋	0橋
	幹線市道Ⅱ号線に架かる橋長5m以上15m未満の桁構造			8橋	0橋	0橋
	その他市道に架かる橋長5m以上の桁構造			26橋	0橋	0橋
重要度3	幹線市道Ⅱ号線で橋長5m未満の桁構造またはボックスカルバート構造	定期点検	損傷が顕著な段階での大規模修繕や架替え、カルバート構造への変更等	20橋	0橋	0橋
	その他の橋			93橋	1橋	0橋
合計				172橋	9橋	0橋

II 横断歩道橋長寿命化修繕計画(新規)

対象歩道橋：豊田跨線人道橋、平山跨線人道橋、日野台歩道橋

管理区分	分類指標	健全性の把握	対策方法	対象歩道橋数	判定区分Ⅲ	判定区分Ⅳ
重要度1	跨線橋、緊急輸送路の横断歩道橋	定期点検	損傷が軽微な段階での予防保全的な補修等	2橋	2橋	0橋
	幹線市道Ⅰ号線の横断歩道橋			1橋	1橋	0橋

III 大型カルバート長寿命化修繕計画(新規)

対象構造物：南平立体

管理区分	分類指標	健全性の把握	対策方法	対象構造物数	判定区分Ⅲ	判定区分Ⅳ
重要度1	幹線市道Ⅰ号線の大型カルバート	定期点検	損傷が軽微な段階での予防保全的な補修等	2施設	0施設	0施設

○事業計画

I 橋梁		年度										
橋名	内容	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
5024橋	設計											
	工事		○									
湯沢橋(歩道部)	設計											
	工事	○										
矢頭橋	設計	○										
	工事			○								
東光寺橋 新坂上橋	設計					○						
	工事							○				
大坂橋 新坂西橋	設計						○					
	工事								○			
矢の上橋	設計							○				
	工事									○		
神明橋	設計								○			
	工事										○	
ふれあい橋	設計											
	工事			○								
II 横断歩道橋		年度										
橋名	内容	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
日野台歩道橋	設計											
	工事		○									
豊田跨線人道橋	設計	○										
	工事				○							
平山跨線人道橋	設計			○								
	工事					○						